

# 「勉強よりも一芸」 「あのカツプルの離婚理由は……」 お笑い界の神様、横澤彪さんが特別講義



フジテレビの人気番組「オレたちひょうきん族」や「笑っていいとも！」などの生みの親として知られる横澤彪さんが6月3日、文学部の授業の特別講師として登場し、芸能界やお笑いの世界を語った。社会学・石川晃教授の授業の一環として一般教室で行われた。「ひょうきん族」はたけしや明石家さんまら売り

出した80年代の伝説的番組、「笑っていいとも！」は長寿番組のギネス記録を更新中だ。ともに仕掛け人は横澤さんで、フジテレビ・ゼネラル・プロデューサーの

あと、吉本興業取締役となり、吉本新喜劇の東京進出などにも関わった腕をふるった。  
「お笑い界の神様」の講義は、セビロを脱いで、いきなり芸能界の超極秘裏話からはじまった。「(実名入り)超有名人カツプルの)本当の離婚原因は……」「ジャニーズ事務所といえは……」と  
柔和な表情で、遠慮な

く。「そんなこと話しちゃっていいの!」と、こちらが突っ込みたくなるようなビックリ話がつづいた。  
「大学の研究チームと吉本興業が協力して実験したところ」と話題を転じる。  
「笑うことでガン細胞が減った、そんなデータも出たんですよ」。笑いのすばらしさ、笑えば健康になる

——笑いのすすめである。  
芸能界とサラリーマン社会はやはり違うらしい。どちらも経験した横澤さんは、「芸能界は異質で、サラリーマン社会が普通と考えていたときがあったが、違った。本当は、その逆。年功序列も国籍差別もない、本当に実力本位でその個人を見る芸能界の方が普通でしょ」と話した。  
最後に、受講生にこう語りかけた。  
「楽しんで学生生活を送ろう! 私も、学生時代はパチンコ・麻雀・映画・コパンパをやり、本当に楽しんだ。勉強よりも大切なことは、一芸を持つことだ。私は、人のやっていないことをやろうと思いつけて番組を作ってきた」  
つまり、勉強よりも一芸。そんな横澤さんの「これからの野望」は、「明るく楽しいお葬式づくり」だそうである。

こんなに笑いが起こる楽しい講義・講演会もめずらしいだろう。原稿なしで約1時間、話題は尽きず、受講生は独特のものの方や考え方にも刺激を受けたようすだった。  
お笑いの今を支える大阪弁で、「神様」を送るのがマナーだろう。「おおきにほな、さいなら」  
(学生記者 岩倉彩川 商学部1年)

## 「夢は逃げない」 ヤンキー先生(義家弘介さん)が 多摩キャンパスで熱いメッセージ

ヤンキー先生の登壇に、多摩キャンパス・クレセントホールがわき返った。6月8日、白門祭実行委員会主催の新歓講演会だ。

ヤンキー先生こと義家弘介さんは、ページョのスーツに身を包み、笑顔で登壇。いきなり「中大法学部に入らなかったもので、きょうはリベンジのつもりできました」というあいさつに、会場はどっとわいた。

若者の気持ちをわしづかみにするような、ストレートな語り口。「荒れた半生」を振り返る。

生後まもなく両親の離婚。父方の祖父母に育てられた。中学生になると「不良」と呼ばれ、タバコ、酒、シンナーの日々。高2の時、暴

力事件を起こし退学処分。家から絶縁され、里親のもとで生活した。

「そこで丸1年かけてしたことがあった1つある、これからのこと」を考えた。それが16歳ですべてを失った青年の“回心”だったそう。と、地元の長野県には受け入れてくれる学校はなく、1998年冬、のちの人生を変える北海道・北星学園余市高校にたどりついた。里親は「前、前から学校へ行きたいと言っていたが行きたいか?」と聞いた。大人はなんて無責任だと思った、という。誰が北海道の私立高校に行く金を出してくれるのか、と。「行けるものなら行きてーな」。当然無理

だと思っていたが、里親に頼まれた父から手紙が届いた。

「やっと息子が自分の意思で何か始めようとしている、応援したい」と父の思いが伝わっていた。

高校で出会った安達俊子先生のこと。すぐ怒り、泣き笑い、そして褒めてくれる人だった。素直に「いいな」と思ったと言う。3年の冬、周りですぐ一人、大学入試を考えた。「勉強など生きるより簡単」とがんばって、明治学院大学法学部へ入学。記者か弁護士か、と意思して司法試験への道を選んだが、

大学4年秋、オートバイの事故。横浜の病院で入院中、安達先生が見舞いに駆けつけてくれたという。「あ

なたは私の夢だから死なないで」と言われた。「くそつたれの世の中だから、傷ついた者の周りにいよう。安達先生の跡を歩こう。教師になろう」と誓う。テレビ

のドキュメント番組やドラマにもなったところである。

現在は横浜市教育委員会  
で、「きかせて! 学校」という企画で、市内の学校を回り、生徒と一緒に授業を受けて遊ぶなどユニーク教育活動を展開している。

大人には3つの条件が必要という。「聞く、伝える、学ぶプロフェッショナルであること」。子供の心に耳を傾け、愛情を伝え、学ぶ

「私は罪人です。本当ならこういうことを伝える立場ではない。たくさんの過ちを繰り返し、裁かれたとき償えたと勘違いしていた。しかし、罪は永遠に償えない。過去を解き放ちながら、この場に立つ。自分を救ってくれた教育へ恩返しをす

るために」と話した。

印象深い、2つのメッセージを伝えよう。

「夢は絶対逃げない。自分が夢から逃げていくんだと思うに希望とは、もともとあるものともいえぬし、ないものともいえない。それは地上の道のようなものである。もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ」

“school”の原義はギリシャ語の“暇”だそう。この大学生活に勉強しなくて、青春しなくて、恋愛しなくて一体いつするのか。私たちの世代が、団塊の世代に代わって夜明けを迎えなければならぬ。

“コケッココ”と夜明けを知らせる“にわとり”先生になりたい」

ヤンキー先生は、出産に立ち会った現在2歳になる息子をもつパパでもある。

(学生記者 白田彩乃Ⅱ商学部3年)

## 「官僚主導の政治を打破せよ」 菅直人 民主党前代表が熱弁

菅直人・民主党前代表が  
5月13日、多摩キャンパス・  
Cスクエアで行われたやる  
気応援イベント「政治の世  
界で『働く』という選択」  
に顔をみせ、熱弁をふるった。  
Innovators' Communityの

主催で、実際に政治の世界  
で働く人の話を聞き、政治  
を考えようという企画。

第1部講演のテーマは  
「民主権と政治参加」。  
菅さんは、政治の現状につ  
いて「官僚が全てを動かして



ている。本来、行政は内閣の仕事。憲法にもそう書いてある。内閣(厚生大臣)にいたときも、自分は後から書類に印を押すだけだった」などと、自身の経験を交えながら語った。

また「官僚が握っている情報をもっと国民に公開し、行政を内閣に戻さないと民主権は実現されない」と強調し、同時に「国民も自分の国を自分で治める、という意識がうすい。官僚に任せてしまつて、俺たちがやるんだ、という気持ちがない」と学生たちへの期待感をこめて訴えかけた。

第2部は「政治の世界で働く」という選択」をテーマにパネルディスカッションに移り、菅さんのほか多摩市議の岩永ひさかさん(99年中大・法卒)、衆議院議員学生秘書の中村彩乃さんが出席、コーディネーター・山口渉さんの司会で進められた。

「私は、きれいで美人と  
いうことが売りで、初めての  
選挙で当選できました」  
と岩永さんは元気がつらつ  
「どんな形であれ有権者が  
興味を持ってくれることは  
重要だと思えます。もちろ

ん選挙活動もしましたよ」  
と照れ笑いしながら全国  
最年少市議・初当選体験を  
語った。隣で笑いながら菅  
さんは、「私は何回も出馬  
したが、なかなか当選しな  
かった。しかし、あきらめ  
ずに活動したことで人間関  
係も広がり、仲間も得るこ  
とができた」と振り返り、  
つらい時期でも得られるも  
のがたくさんあったと話し  
た。

反日デモから日本の学  
生について話に移ると、菅  
さんは「日本の学生がアジ  
アの中でどのように行動を  
とっていくのか、少し不安。

## 「中央大学×関西大学 ジョイント進学セミナー」にぎわう 06年度「6都市入試」導入で初の試み

中央大学は来年度入試か  
ら全国6会場で「6都市入  
試」を実施する。それへ向  
けて「中央大学×関西大学

今の学生は考えが浅いよう  
に感じる。考えをたどつて  
深く考えてほしい」と苦言  
も呈した。また、政権交代  
に関しては「今のやりがい  
は政権交代できる政党を作  
ること」と熱く語った。

党代表辞任劇のあと、ミ  
ソギの四国巡礼をして議  
員活動を再開、いまは党の  
J R西日本脱線事故対策本  
部長。代表質問を控えてい  
るとあって、菅さんはディ  
スカッションが終わると足  
早に国会へ向かった。

(学生記者 八並恵理子 Ⅱ  
法学部1年十中島聡 Ⅱ総合  
政策学部1年)

ジョイント進学セミナー」  
が名古屋など3カ所で開催  
された。関西大学との共催  
は初めてである。

皮切りの「ジョイント進学セミナー」は5月29日、JR名古屋駅前の愛知県中小企業センターで開かれた。開場時間の正午前から列ができ、来場した受験予定の高校生たちは、両大学の概要が分かるプレゼンテーションや、予備校の講師による過去問題分析等の講演を真剣な眼差しで聞き入っていた。



相談ブースでは熱心なやりとり＝名古屋会場

明を行った。また入試問題分析では、中央大学は学部ごとに出题傾向に特徴があるとの説明があり、実際にサンプル問題を解く場面も見られた。

進学相談ブースでは、多摩キャンパス周辺で一人暮らしをする際の生活費や、中央大学の就職活動のサポート体制は？といった保護者の質問も多かった。

中央大学のプレゼンテーションでは、入試・広報センターの職員が中央大学の3つのキャンパスやフアカルティレンケージ・プログラム、そして06年度入試から導入される「6都市入試」

(札幌、仙台、名古屋、大阪、広島、福岡)などについての説明を行った。

このあと6月11日には本学の後楽園キャンパスで、同25日には大阪のナンバ

プレイスで両校の進学セミナーが開催され、多くの来場者でにぎわった。

## 「アイデアぽすと」所長賞は 商2・高島康弘さん 「統一的なブランド力強化」を提案

04年度「アイデアぽすと」の入試・広報センター事務所長賞に商学部2年、高島

康弘さんの提案「中央大学のブランド力強化へ向けて」が選ばれ、3月25



受賞した高島康弘さん。左は北村敬子入試・広報センター所長

日、北村敬子所長(商学部教授)から高島さんに表彰状と賞金5万円が贈られた。

高島さんは「大学の個性として、確固としたオンラインワン(校章、卒業会など)を確保しつつ、あらゆる実社会での活躍でナンバーワンをねらうために、ブランド力(うわべ)と、中身(実績)

の相互強化を図るべきだ」とし、①校章はバッジの形のもの(中央にペンがある円形のもの)で統一する②「白門」の名を、辞典に「中央大学の異称」と出てくるほどに広める③卒業生組織も名称をひとつに統一(学生会)または「白門学生会」など)したほうが結束力の強化になる——など具体策もあげている。

中央大学の統一ロゴを作成準備中だった大学側の作業とも合致する内容性から賞が決まった(統一ロゴは新年度から大学案内など各種印刷物に使用されている)。

高島さんは表彰状を手に、「中大にはエンブレムとかいろいろあるんだね、という弟の一言がきっかけなんです。そうだなあと、統一的なブランド力のことを考えるようになりました。アイデアが採用されてとてもうれしい」と感激した様子だった。